

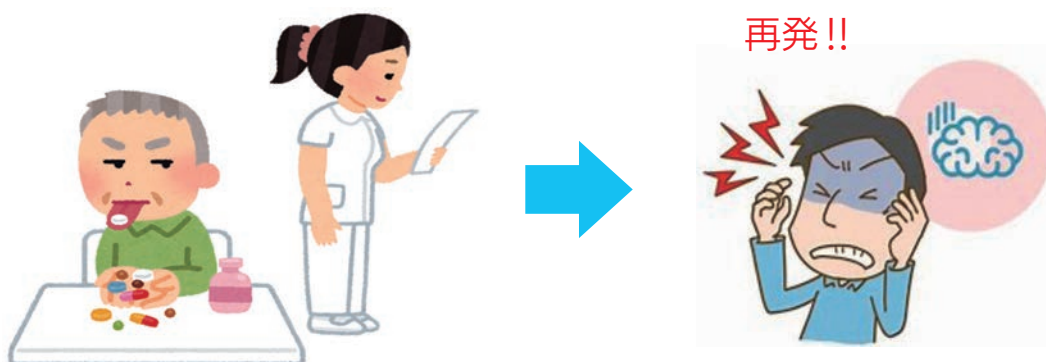
2. くすりのはなし

1

お薬

脳卒中発症後は高血圧などの治療薬に加え、血栓を防ぐ抗血栓薬など、いくつもの薬を飲みます。

自己判断で治療をやめたり、主治医の指示通りに薬を飲まないで、脳卒中の再発率が高まります。



再発予防は生涯必要です。安心して暮らすためにも生涯にわたって薬をのむことが必要です。

2

薬の飲み方について

- ①薬は用法・用量（決められた時間、決められた量）を守る事により、薬の有用性を高め、副反応のリスクを減らします。
- ②内服が困難な場合は口腔内崩壊錠（舌の上で溶ける薬）への変更や市販の服薬補助ゼリー「とろみ剤」を併用すると服薬しやすくなります。
- ③内服薬の種類が多い場合は1包化や見直しも検討しますので、主治医または薬剤師にご相談下さい。
- ④薬の飲み忘れを防ぐために「**お薬カレンダー**」の利用をお勧めします。
- ⑤物忘れ・認知症のある人は、薬を確実に飲む工夫をしましょう。

薬を確実にのむための工夫

① 1包化



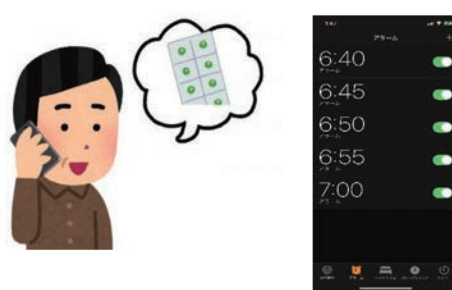
② お薬カレンダー・お薬ボックス
(該当時刻の薬をのめたか確認しやすい)



③ メモを置く
(目で見て繰り返し確認できる)



④ タイミングを見て電話や
アラームを鳴らす



⑤ デイサービスの利用



⑥ 訪問介護（ヘルパー）の利用



お薬の介助

⑦ 訪問薬剤師の利用
(自宅に配達し、服薬状況を把握し
て適切に服薬できるように工夫・
指導をしてくれる)



⑧ 訪問看護師の利用



3

薬を飲むときの注意

内服する際は、水と一緒に飲んでください。1度に内服する錠数が多い場合は、何回かに分けて内服して頂いても構いません。

ここで、用法の指示を一部紹介致します。

食後	食前	食間	就寝前
食事の後30分以内	食事の 1時間前～30分前	食事と食事の間 (食後2時間が目安)	就寝する 30分くらい前

注意事項

ねたきりの方にお薬を飲ませる場合は、上半身を30～60度くらい起こして飲ませ、服用後はしばらくのあいだは、そのままの姿勢でいるようにします。



お薬が上手く飲めていない場合は薬剤師に相談してください。

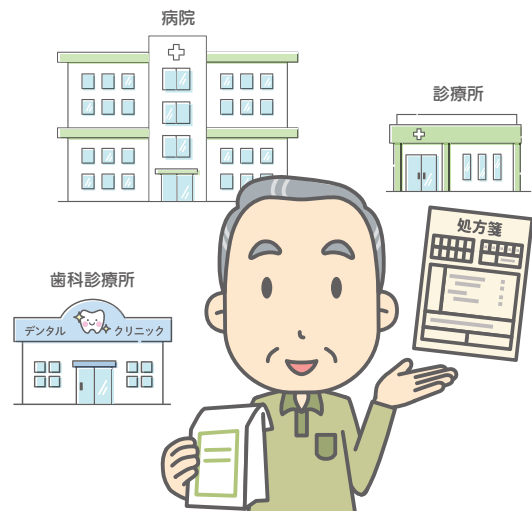
飲み忘れて、飲んだか飲んでないかわからなくなった場合	お薬カレンダー、仕切りのある箱を利用します。
お薬を切り分けしたりして服用方法がわからなくなった場合	間違えて包装のまま飲み込む場合もあるので注意が必要です。
古いお薬がたまってしまい、整理が出来ない場合	主治医に相談して調整します。
うまく飲み込みが出来ない場合	患者さんにあった調剤をします。
生活リズムのために服用が難しい場合	服用回数を減らしたり、服用時間をずらしたりできる場合があります。
副作用がこわくて飲めない場合	不安や疑問についてはご相談ください。
自分で調整する場合	調整してはいけない薬もありますので注意が必要です。
飲み方、使い方がまちがっている場合	効果が出なかったり、副反応が出ることもあります。

4

薬をもらう際のポイント

かかりつけ薬剤師・薬局を持つことをお勧めします。

かかりつけ薬剤師・薬局は薬による治療の支援、健康サポートに関する相談に応じることができます。複数の医療機関を受診されている場合、薬剤の重複や相互作用を防ぐことができます。薬が効いているか、副反応が生じていないかを継続的に確認します。また、市販薬や健康食品の取り扱い、介護関連商品の相談もできます。服薬情報の一元的・継続的把握、24時間対応・在宅対応、医療機関等との連携といった役割を担っています。こういった、かかりつけ制度を活用して、安全・安心な在宅療養につなげましょう。



5

血液をサラサラにする薬（抗凝固薬、抗血小板薬）

脳梗塞の再発予防には血栓を作らせない再発予防の薬剤が投与されます。

①抗凝固薬

●ワーファリン®（ワルファリンク）

ワルファリンは、ビタミンKのはたらきを抑制することで、ビタミンKに依存する血液凝固因子を間接的に抑制する薬です。日本で長く使用されてきた薬であるため十分な実績があり、薬価が安いです。ただし、食事内容や一緒に服用するお薬によって効果変動するため、定期的に血液検査を行い、必要に応じて薬の量を調整する必要があります。

注意事項

- 指示された通りに服用すること。服用を忘れた場合は主治医または薬剤師に報告してください。
- 定期的に診察を受け、血液凝固能検査（プロトロンビン時間及びトロンボテスト）を必ずしてもらうこと。
- 手術や抜歯をする時は、事前に主治医に相談すること。
- 創傷を受けやすい仕事は十分に注意してください。
- 納豆、クロレラ食品及び青汁は本剤の抗凝固作用を減弱させる事があるので主治医にご相談ください。
- 他院や他科に受診の際は、本剤の服用を主治医、歯科医師、または薬剤師に知らせてください。

●直接経口抗凝固薬（DOAC）

DOACはビタミンKとは無関係に抗凝血作用を示すため、食材の制限がありません。

- 定期的な血液凝固能検査（プロトロンビン時間及びトロンボテスト）はありませんが、指示された通りに服用すること。服用を忘れた場合は主治医または薬剤師に報告してください。
- 手術や抜歯をする時は、事前に主治医に相談してください。
- 創傷を受けやすい仕事は十分に注意してください。
- 他院や他科に受診の際は、本剤の服用を主治医、歯科医師、薬剤師にお知らせください。

以下にDOACの4剤をご紹介します。

• プラザキサ[®]（ダビガトラン）

ダビガトランは、血液凝固因子トロンビンを直接抑制する作用を持つ薬です。カプセルの形状が大きいいため嚥下障害が見られる患者さんには不適です。

• イグザレルド[®]（リバーロキサバン）

リバーロキサバンは、1日1回服用での有効性があります。また他の剤形として細粒が発売されており、嚥下障害のある場合や経管栄養の場合にも使用が可能です。

• エリキュース[®]（アピキサバン）

アピキサバンは、1日2回の服用が必要であり、年齢・腎機能・体重に応じて減量基準が明確に決まっています。

• リクシアナ[®]（エドキサバン）

エドキサバンは、1日に1回の服用で良いため、服薬の管理が容易です。また口腔内崩壊錠があり、高齢者でも内服しやすい薬です。腎機能に問題のある患者さんには注意が必要です。

②抗血小板薬

血小板の凝集を抑制します。
以下に4剤をご紹介します。

- **バファリン配合錠A81[®]、バイアスピリン[®]錠100mg（アスピリン）**

アスピリンは鎮痛解熱剤として広く用いられる薬ですが、血小板の凝集を抑える作用があることでも知られています。75～150mgで効果があります。アスピリンを処方されている場合、頭痛鎮痛剤として市販されているアスピリンを代用的に服用することはできません。また胃潰瘍予防目的に胃薬などを併用することがあります。

- **プレタール[®]、シロスレット[®]（シロスタゾール）**

シロスタゾールは、血小板の凝集を抑制する効果のほか、動脈硬化を抑える効果、血行改善などの効果も期待できる薬です。ラクナ梗塞の症例でも安全に使用でき、脳卒中の再発予防効果がアスピリンよりも優れていることがわかっています。一方で、頭痛、動悸、頻脈といった副作用を生じる場合があります。

- **プラビックス[®]（クロピドグレル）**

クロピドグレルは、アスピリンよりも優れた血小板凝集抑制作用を持つ薬です。有効性と安全性が高く、副作用も比較的少ないため、高齢、高血圧、糖尿病、喫煙者、心疾患・末梢動脈疾患、脳卒中の既往歴のある場合などで使用されます。

- **エフィエント[®]（プラスグレル）**

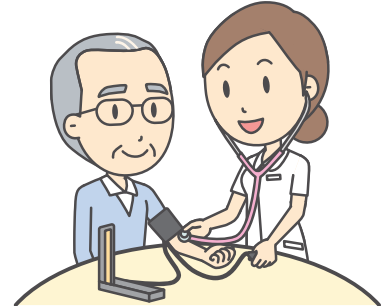
エフィエントは、クロピドグレルよりも血小板凝集抑制作用の効果発現が早い薬です。有効性と安全性が高く、副作用も比較的少ないため、高齢者、高血圧、糖尿病、喫煙者、心疾患・末梢動脈疾患、脳卒中の既往歴のあるケースなど、高リスクの例で積極的に使用されます。

- **飲み合わせについて**

抗凝固薬、抗血小板薬共に、他の薬剤との飲み合わせが薬剤の効果に影響して何らかの副作用につながる場合があります。他の医療機関を受診して薬剤の処方を受ける場合には、必ず前もって脳梗塞の内科的治療を受けていることを自己申告してください。

①高血圧治療薬（血圧を下げる薬）

高血圧は脳梗塞の危険因子の一つです。再び脳梗塞にならないように、血圧を正常に保っていることがとても重要です。



●カルシウム拮抗薬

カルシウム拮抗薬は、Caイオンの細胞外から細胞内への流入を、カルシウムチャンネルの所でブロックします。その結果、血管が拡張し血圧上昇を抑えて血圧低下を起こす働きがあります。

副作用

カルシウム拮抗薬では頭痛や顔のほてり、動悸などが起こることがあり、女性で起こりやすいです。

注意事項

グレープフルーツジュースとは一緒に飲まないようにして下さい（作用が強くなるためです）。

商品名	ノルバスク [®] 、アムロジン [®] （アムロジピン）、アダラート [®] （ニフェジピン）、ペルジピン [®] （ニカルジピン）、ヘルベッサ [®] （ジルチアゼム）、ニバジール [®] （ニルパジピン）、ヒポカ [®] （パルニジピン）、ランデル [®] （エホニジピン）、アテレック [®] （シルニジピン）、スプレンジール [®] （フェロジピン） など
-----	---



●ACE（エース）阻害薬・アンジオテンシン受容体拮抗薬

レニン・アンジオテンシン系の活動を抑えて血管を広げます。血圧を下げる効果、腎機能を保護する作用があります。

注意点

血圧の下がりすぎによる立ちくらみ、ふらつきが見られることがあります。
薬の飲み忘れ、決められた通りに飲まないことにより血圧の変動が大きくなります。

商品名	カプトリル [®] （カプトプリル）、レニベース [®] （エナラプリル）、セタプリル [®] （アラセプリル）、プロプレス [®] （カンデサルタン）、ニューロタン [®] （ロサルタン）、ディオバン [®] （バルサルタン）、アジルバ [®] （アジサルタン）など
-----	---

②脂質異常症（高脂血症）治療薬

血液中のコレステロール値を下げて再発を予防します。

商品名	クレストール [®] （ロスバスタチン）、リピトール [®] （アトルバスタチン）、メバロチン [®] （プラバスタチン）、リポバス [®] （シンバスタチン）、ローコール [®] （フルバスタチン）、リバロ [®] （ピダバスタチン）、ゼチーア [®] （エゼチミブ）、ロレルコ [®] （プロブコール）、ベザトールSR [®] （ベザフィブラート）、リピディル [®] （フェノフィブラート）、ロドリガ [®] （オメガ-3脂肪酸エチル）など
-----	--

副作用

肝障害として全身がだるい、食欲がない、疲れやすいなどの症状が出る場合があります。また、手足に力が入らないといった横紋筋融解症というものを起こす可能性があります。

③糖尿病治療薬

糖尿病は脳梗塞の危険因子の一つであり、そのままにしておくと動脈硬化が進み、再発のリスクが高まります。糖尿病治療薬はたくさん種類があり、それぞれ飲み方や注意点が異なりますので用法、用量を守り、飲み忘れに注意しましょう。

注意事項

低血糖が疑われる場合は、次の対応をしてください。経口摂取が可能な場合は、

ブドウ糖を中心とした糖質を摂取してください。症状の改善がみられるまで継続してください。改善がみられない場合は、すぐに医療機関を受診してください。

※シックデイ

シックデイとは、糖尿病がある状態に急性の病気が加わるとことをいいます。発熱、咳、嘔吐、などの症状（例えば：風邪、インフルエンザ、ノロウイルス、肺炎、尿路感染症など）が出て、普段のように食事が取れなくなった状態をいいます。このような状況では、高血糖となることがあります。

シックデイの対策

脱水への対策	エネルギー不足への対策
<ul style="list-style-type: none">水分摂取（目安は、1,000～1,500ml）体温近くに温めた水やお茶が良い。スープやみそ汁で水分やミネラルをとるなどの工夫をする。スポーツドリンク（糖分が多く入っているため、注意する。）	<ul style="list-style-type: none">食べやすい炭水化物がおすすめ。お粥、煮込みうどん、口当たりの良い麺類など絶食状態にならないようにする。1型糖尿病の方、2型糖尿病（インスリン分泌の低下）の方では、糖質を取らないと脂肪が分解されてケトン体が産生され、ケトアシドーシスを起こすことがある。食事を取れなければ、早急に医療機関へ！

7

お薬手帳

お薬手帳は複数の病院や診療所を受診した場合、内服している薬や飲み合わせが確認出来ます。また、災害時にはお薬手帳を持っていると、避難先の医療機関や薬局にも薬の情報を正確に伝えることが出来ます。お薬で分からないことがありましたら、主治医、薬剤師にご相談ください。

